

## 郷帳・村明細帳

作者:郷帳=大名、代官、幕府 村明細帳=村方、村役人

成立:郷帳=江戸期 村明細帳=江戸初期から明治初年



## 解題

## Keyword

- 国絵図
- 村高
- 「慶長郷帳」
- 「正保郷帳」
- 「元禄郷帳」
- 「天保郷帳」
- 「村差出明細帳」
- 「村鑑帳」
- 「村方郷鑑」

郷帳は江戸時代幕府が国絵図とともに編集した、一国ごとに村名・村高を書き上げた帳簿。全国の収納高を明確に把握する財政上の基礎台帳の性格を持つ。

村明細帳は江戸時代初期から明治初年にかけて、領主・代官の求めに応じ、村方から提出した村の状態を詳細に記した帳簿。

### ■ 成立経緯

#### <郷帳>

『国史大辞典』によると、郷帳には次の2つの意味がある。

①成箇(取箇、年貢)および定納物の額を村ごとに毎年記載した年貢元帳。年貢割付帳、年貢米金皆済目録とともに地方(じかた)三帳のひとつ

②江戸幕府が国絵図とともに編集した国ごとの郷村高帳更に、一国単位の村高帳だけでなく、特定の単位を持った村高帳も広い意味で郷帳とよぶことがある。ここでは、②にあたる郷帳のみをとりあげることとする。

徳川幕府による郷帳の編纂は、少なくとも慶長・正保・元禄・天保の計4回にわたって行われたとされており、一般には編纂時の年号を冒頭に付けて呼ばれている。

#### 慶長郷帳

徳川幕府が初めて全国の大名に提出を命じた郷帳だと思われる。しかし説明が進んでおらず、不明な点が多く残されている。慶長郷帳の作成は慶長9年(1604)に事業が開始され、1、2年という短期間で行われたと思われるが、現在のところ残存しているものが少ないので、全国的に提出されたかどうかはわからない。西日本諸国の

みが対象となったのではないかという説もある。

慶長18年(1613)にも幕府は知行高目録(郷村帳)を提出させている。諸大名に領地の判物・朱印状を授け、主従関係を強めるためだったと思われるが、大坂の陣などに妨げられ、実際に領地の判物・朱印状を与えたのは元和3年(1617)であった。

### 正保郷帳

正保元年(1644)12月、大名・諸国の代官へ作成の指示がされている。郷帳(2部)提出時には、国絵図2部、各大名の居城の絵図1部、海陸之道筋及び古城の書付2部を一緒に提出させた。そのほか東海道の居城を持つ大名にはその模型も提出させている。国絵図・郷帳・道之帳・城絵図各1部は幕府文庫へ、残りの国絵図・郷帳・道之帳各1部は実務用に幕府勘定所へ保管された。当初正保2年中に提出するよう定められたが、遅れるところが多かったという。明暦年間(1655-58)に完成したとされるが、疑義もある。

### 元禄郷帳

元禄10年(1697)諸大名へ作成の指示がされている。正保郷帳と同様2部作成することとされていたが、提出するものは正保郷帳の際とは異なり国絵図と郷帳のみであった。

相模国・伊豆国の提出は元禄15(1702)年7月、武蔵国・上総国・下総国の提出は同年11月であった。元禄13年から16年の間に提出されたものが多いようである。

### 天保郷帳

正保・元禄の郷帳作成時とは異なり国絵図の作成に先行して行われた。2部作成。

天保2年(1831)12月、幕府が郷帳の改訂を通達した。各領主が領内の村別石高帳を作成して幕府へ提出し、各郷帳の最終的な作成は幕府が行った。幕府は拝領高に込高と改出新田高を加えた高(いわば実高)の記載を求めたが、各藩の高帳提出は遅れ気味で、数度の督促の後、天保5年(1834)5月ごろ、ようやく高帳の提出が完了した。郷帳完成は天保5年12月である。

これらに先立つものとして天正19年(1591)の御前帳(ごぜんちょう)がある。これは豊臣政権が朝鮮出兵を前にして、全国の大名領主に対し提出させた、検地帳に基づく領主ごとの郷帳である。個別大名の生産高を掌握し、軍役を賦課する基準としたという説もある。必ずしも実際の生産高を反映したものではないと思われるが、全国的に石高制を確立させた意義は大きい。

また、徳川幕府は、寛文4年(1664)全大名に一斉に朱印状・判物を発給する(寛文印知)のに先立ち、国郡別の村高を記載した郷帳を各大名に提出させている。基本的には正保郷帳を写して提出しているが、改めて作成し直して提出している例もあり、この場合には正保郷帳提出後の新田高を加えた実高を記載している。また正保郷帳提出後に大名に取り立てられた者も新たに提出している。和泉清司によると、2005年現在、残存しているものは4点である。

## ＜村明細帳＞

江戸時代の代表的地方書『地方凡例録』には、村差出明細帳の項目はあるが、始まりの時期は記されておらず、村明細帳の項目はない。村差出明細帳の項によると「其村にあるほどの儀は一事も洩ざる様に記し」た文書とある。村差出が後に村差出明細帳になり、さらに省略されて村明細帳または明細帳と呼ばれるようになったという説もあるが、はっきりしたことはわからない。

三河国(現・愛知県東部)より東の地域では、現在判明している限りでは書上帳、差出帳、差出明細帳、村鑑帳等13の名称が使用され、村明細帳という名称の使用率は低い。対して、畿内、播磨、豊後等の西国では使用率は高い。しばしば使用される村鑑帳という名称は、『地方凡例録』には、享保年間(1720頃)に始まったと記されている。それによると「此帳面にて村方の様子大略相分る」文書であり、記載項目は村(差出)明細帳と大差ない。しかし村(差出)明細帳が①代官・領主交代の時②幕府巡見使派遣の時③領主・代官廻村の時④将軍が日光社参をする場合⑤その他特別の必要があった時などの際に村から代官に提出され、保管されているのに対し、村鑑帳(村鑑大概帳、村々様子大概帳)は将軍の御前に供すため、代官から幕府勘定所に毎年提出されている。『徳川幕府県治要略』では村明細帳は「民簿」、村鑑は「官簿」として区別されている。このように両者は本来的には異なった文書とされるが、村方文書の中に村鑑帳と題された帳簿が残されていることも確かである。これについては、代官が勘定所へ提出する村鑑帳を準備する段階で、各村に書き上げさせた下帳ではないかという説もあるが、定まってはいない。また「村方郷鑑」(手鑑ともいう)という、代官役所の地方役人が執務の必要上自分で作成し所持していた村方の明細帳も、区別されるべきという説もある。

しかし村明細帳と村鑑、村方郷鑑の区別は実際のところは困難で、これらのすべてを村明細帳として扱うこともあり、村明細帳類と称することもある。

村明細帳の始まりについては諸説ある。三代将軍家光の国絵図・郷帳差出の下令(1644)を大きな契機とし、この後元禄の地方直し(1700年頃)に伴い代官所より雛型が配布され、村明細帳は一般化したという説もある。

村明細帳は領主、代官の示した雛型に応じて作成された。最も古い雛型は貞享2年(1685)ごろの大和国のものとされているが、それに先立ち、小田原藩や尾張藩では、十分に村明細帳の要件を備えた文書が作成されている。

## ■ 作者

### ＜郷帳＞

#### 慶長郷帳

各国の諸大名が作成したと思われるが、詳細は不明。

#### 正保郷帳

国別に郷帳作成責任者(絵図元)を指定し、幕府に提出させている。1か国ないし複数の国を単独でまたはその大部分を支配している大名は、そのまま責任者になっている。国内に複数の大名が存在したり、幕領が存在するところは、国内の有力大名と奉行ないし郡代・代官らが責任者になっている場合が多い。相模国は中原代官成瀬氏と坪井氏、武蔵国は関東郡代伊奈氏が指名された。

### 元禄郷帳

正保郷帳と同様国ごとに定められた絵図元が作成し提出している。相模国・武蔵国・安房国・上総国・伊豆国の絵図元は、幕府の絵図改訂担当者である井上大和守、安藤筑後守、松前伊豆守、久貝因幡守の4人だった。この5ヶ国は幕領や旗本知行所が多く、絵図元を担当できるような大名が存在しなかったため、幕府の絵図改訂担当者が直接携わったのだと思われる。

### 天保郷帳

各領主が領内の村別石高帳を作成して幕府へ提出し、最終的な作成は幕府が行った。

## ■ 内 容

### <郷帳>

#### 慶長郷帳

不明な点が多いが、①国絵図とともに一国単位で作成することを原則としていた。しかし呼称は「田帳」「郷村帳」「高帳」「高目録」等国によって不統一であり、かつ領主別の郷帳も作成させるなど、一定していなかった。②三部作成するよう指示した。③記載内容についてもきちんとした統一基準による記載項目が定まっていなかったため、国によりばらつきがあった。郷村単位で田畠の内訳や物成高を記載することが最低限の基準であったようだ。といった指摘がなされている。

#### 正保郷帳

正保郷帳の特色は記載内容の詳細さである。「国絵図仕様覚書」によると、郷帳作成に関して①村々を郡別に区切る。②村高を郡別に集計する③帳末には一国の総高を記載する。④郡名や郷名など難字には朱書きでふりがなを付ける。⑤村ごとに村柄を記載する。⑥郷村名を書き落とさないようにする。⑦統一的記載基準に従うこと、といったことが、指示されている。

また村高は拝領高(公称高)とし、新田開発等による増加分は含めていない。そして領主別に村高の内訳を記載している。

#### 元禄郷帳

基本的に正保郷帳の形式を踏襲しているが、記載内容は簡略化され、御料・私領の区別、領主名、村高の内訳などは不要とされている。村高は拝領高(公称高)である。村名と村高のみを記し、それを郡ごとに集計し、最後に一国の総高と村数を計上している。国ごとに巻末に提出年月と担当領主名が記されている。

## 天保郷帳

各領主が幕府へ提出した領内の村別石高帳をもとにしている。元禄郷帳と同様に村名と村高のみを記し、それを郡ごとに集計し、最後に一国の総高と村数を計上している。ただし元禄郷帳とは異なり実高記載である。国絵図に書き上げられているものとはほぼ一致し領地関係の記載は無い。すべての藩で実高での提出が守られたとは限らないので、天保郷帳の高が生産力の実態を示すとは言いがたいが、正保郷帳・元禄郷帳の高よりは実高に近いのではないかと考えられる。

### <村明細帳>

村明細帳は領主・代官の示した雛型に応じて作成された。記載されることの多い項目としては、村高、田畑の面積(反別)、貢租関係、家数、人口、牛馬数、用水、山林、入会地、農間渡世などである。木村礎は村明細帳の原型を村高・反別・年貢高・人別の4種のうち、人別と他の3要目のうちの2つが1文書に記載されていることと規定している(「寛永期の地方文書」)。

村明細帳作成の目的は村の貢租負担能力を把握することにあつたと思われる。しかし村明細帳はあくまでも雛型にそった形で記載されるので、項目にない事項は記述されないし、農村の生産力は低めに農民の困窮度は強調して記述される等、そのとおりに受け取れない記載もある。村明細帳は村の状態を知るうえで有効な史料だが、記載事項は必ずしも真実を記しているわけではないということを確認しておく必要がある。

『相模国村明細帳集成』別冊によると、内容的に村明細帳とされる史料名は計13あり、総計641点である。内訳は、書上帳(175点 27%)、差出帳(149点 23%)、(村)明細帳(104点 16%)、村鑑帳(93点 15%)、差出明細帳(42点 6%)、その他である。

江戸時代の相模国においては村明細帳という名は非常に少なく、104点のうち74点は明治時代になってからのものである。村鑑帳は幕領の津久井、足柄上郡に集中しており、ほとんどが享保年代(1716-1735)の作成である。

## ■ 相模国の村明細帳

相模国における「村明細帳」の明確な原型は、正保2年(1645)閏5月に代官成瀬五左衛門が命じた書上げと考えられている。この時に示された雛型には、田高、畑高、家数、人数、寺院、馬数、御林等の項目が記されている。これに従って記された文書は、表題を持たず、記載も簡単な一枚物であるが、内容的には村明細帳の原型であることが明白である。

より完全な村明細帳としては寛文11年(1671)小田原藩領根府川村のものが最古とされている。表題は持たず単に「西筋根府川村」と記されているだけだが、冊子仕立てで内容は49項目にわたり『地方凡例録』に記された要目をほとんどみだしている。小田原藩はこれも含め翌12年をかけ、統一形式による村書上げを完成させている。また貞享3年(1686)には新城主大久保氏がさらに完成された「村差出之事」(差出帳)を作成している。

## ■ 諸 本

### 慶長郷帳

原本は現存していない。現存する写しも、飛騨、大和などきわめて少ない。

### 正保郷帳

『国史大辞典』によると、原本・転写本ともに失われたという。しかし作成にあたった大名家に残ったと思われる控、さらにそれより伝写されたと思われる写しが残っており、和泉清司によると2005年現在、33か国分36点が残存しているという。残念ながら相模国の郷帳は残存していない。

### 元禄郷帳

原本は現存していない。もっとも原本に近いと思われる江戸時代後期の写本(17国19冊)は国立公文書館内閣文庫に所蔵されている。昌平坂学問所内に設置されていた地誌調所の旧蔵本で、明治以後大学・浅草文庫を経て内閣文庫に移管された。昭和58(1983)年に重要文化財に指定されている。国文学研究資料館史料館には大和国以外の全国の写本が所蔵されているが、石高の記載を欠いている。

### 天保郷帳

原本(全国85冊)は全て国立公文書館内閣文庫に所蔵されている。2部作成され献上されたうち、幕府の紅葉山文庫に保存されていたものと思われる。保存状態はきわめて良好である。

- ・成立当初の献上本であって本文の信憑性が高い
- ・国・郡・村の各段階の石高が完備している
- ・完全に揃っていて欠本がない

という点で貴重な史料とされ、昭和58年に重要文化財に指定されている。また、この原本を底本とする明治初年の写本(全国32冊)も所蔵されている。



## 史料本文を読む

### 郷 帳

#### <影印本>

- 『天保郷帳(1)(2)附元禄郷帳』福井保解説 汲古書院 1984 (内閣文庫所蔵 史籍叢刊55・56) [210.08/136/55・56]

#### <翻刻本>(現神奈川県域のものを中心に)

### 武蔵国

- 『武蔵田園簿』北島正元校訂 近藤出版社 1977 [K27.98/9A] (索引あり)  
 ※武蔵国の正保郷帳案とされる武蔵田園簿の翻刻 底本:東京大学史料編纂所本  
 『東京市史稿 市街篇 第6 附録』[213.6/27/2-93]、『川崎市史 資料編2』  
 [K21.21/5/3-2](抄出)、『神奈川県史 資料編6』[K21/16/6](久良木・都筑・橘  
 樹三郡)にも掲載あり
- ◆「武蔵国橘樹・久良岐・都筑三郡郷帳(元禄15、天保5)」(『神奈川県史

資料編5』神奈川県 1972 [K21/16/5]

## 相模国

- 『関東甲豆郷帳』関東近世史研究会校訂 近藤出版社 1988 [K27/58]
  - ※相模・武蔵・安房・上総・下総・常陸・上野・下野・甲斐・伊豆の十国の元禄・天保郷帳を集成・翻刻、元禄郷帳(相模・武蔵その他の計8カ国)及び天保郷帳(全)は内閣文庫本を底本とする
- ◆「相模国郷帳(元禄15)」
  - ・『神奈川県史 資料5』神奈川県1972[K21/16/5]
  - ・『藤沢市史料集1』藤沢市文書館 1975[K27.52/3/1]
  - ・『鎌倉市史 近世史料編1』鎌倉市編 吉川弘文館 1986 [K21.4/4-2/2]
  - ・『寒川町史1』寒川町 1990[K21.51/7/1]
  - ・『座間市史2』座間市 1991[K21.56/3/2]
  - ・『綾瀬市史2』綾瀬市 1992 [K21.57/5/2-1]
  - ・『伊勢原市史 資料編 近世1』伊勢原市 1992 [K21.64/7/2-3-1]
  - ・『海老名市史3』海老名市 1994 [K21.58/13/3]
  - ・『逗子市史 資料編1』逗子市1985 [K21.32/2/1] (「三浦郡郷帳」)
- ◆「相模国郷帳(天保5)」
  - ・『神奈川県史 資料5』神奈川県1972[K21/16/5]
  - ・『藤沢市史料集1』藤沢市文書館 1975[K27.52/3/1]
  - ・『鎌倉市史 近世史料編1』鎌倉市編 吉川弘文館 1986 [K21.4/4-2/2]
  - ・『寒川町史1』寒川町 1990[K21.51/7/1]
  - ・『座間市史2』座間市 1991[K21.56/3/2]
  - ・『逗子市史 資料編1』逗子市1985 [K21.32/2/1] (「三浦郡郷帳」)

以上、特に注記がないものは国立公文書館内閣文庫本を底本とする。

## 村明細帳

- <影印本>(現神奈川県域のものを中心に)
  - 『武蔵国都筑郡村明細帳』青葉区古文書之会 2003 [K27.18/13]
    - ※翻刻併載
- <翻刻本>(現神奈川県域のものを中心に)
  - 『相模国村明細帳集成 1-3』青山孝慈・青山京子編 岩田書院 2001 [K27/78/1~3]
  - ◆「村の概観」(『神奈川県史 資料編4・6』神奈川県 1971-1973 [K21/16/4/6])
  - ◆「藩内の町と村」(『神奈川県史 資料編5』神奈川県 1972 [K21/16/5])
  - ◆「村と町の概観」(『神奈川県史 資料編7』神奈川県 1975 [K21/16/7])
  - 『旭区近世村明細帳』横浜旭区歴史の会 1993 [K20.15/13/1]
  - ◆「武蔵国都筑郡野沢村明細帳」(『郷土よこはま』(63)横浜市図書館 1972 [K05.1/15/63])
  - 『村況史料集(上・下)』川崎市市民ミュージアム 1989 (川崎史資料叢書第1・2巻) [K27.21/25/1・2]
    - ※上巻:川崎区・幸区・中原区・高津区 下巻:宮前区・多摩区・麻生区

- ◆「村々のすがた」(『逗子市史 資料編1』 逗子市 1985[K21.32/2/1])
  - ◆「村明細」(『鎌倉市史 近世史料編第一』 鎌倉市 吉川弘文館 1986 [K21.4/4-2/2])
  - ◆「村の概要」(『寒川町史2』 寒川町 1993 [K21.51/7 /2])
  - ◆「村明細帳」(『藤沢市史料集11』 藤沢市文書館 1986 [K27.52/3/11])
  - ◆「村々の概況」(『茅ヶ崎市史1 資料編上』 茅ヶ崎市 1977 [K21.53/4/1])
  - ◆「村明細帳」(『大磯町史1』 大磯町 1996 [K21.61/24/1])
  - ◆「秦野地方の村明細帳」「同(補遺)」(『秦野市史 第2・3巻』 1982-1983 [K21.63/4/1-2・3])
  - ◆「小田原藩領の町と村むらのすがた」「同(補遺)」(『小田原市史 史料編 近世2・3』 小田原市 1989-1990 [K21.7/21/1-4-2・3])
  - 『南足柄市の村明細帳(上・下)』南足柄市文化財保護委員会 南足柄市教育委員会 1981-1983(南足柄市文化財調査報告書11・13) [K06.81/1/11・13]
  - ◆「村明細帳」(『開成町史 資料編近世2』 開成町 1997 [K21.81/23/3-2])
  - ◆「村明細帳関係資料」(『大井町史 資料編1』 大井町 1997 [K21.81/26/1-1])
  - ◆「山北の村むらとそのようす」(『山北町史 史料編近世』 山北町 2003 [K21.81/28/1-2])
  - ◆「村のようす」(『真鶴町史 資料編』 真鶴町 1993 [K21.85/23/1])
  - ◆「近世の村々のすがた」(『湯河原町史』 第1巻 湯河原町 1984[K21.85/9/1])
  - 『厚木市史史料集4 地誌編』 厚木市史編さん委員会 1973[K27.92/3/4]
  - ◆「村明細帳」(『藤野町史 資料編(上)』 藤野町 1994 [K21.95/22/2-1])
  - 『ふじの町史研究誌』(5) 藤野町企画課 1996 [K21.95/9/5]
  - ◆「村の概況」(『城山町史2』 城山町 1990 [K21.95/7/2])
  - ◆「津久井の村々」「津久井領諸色覚書」(『津久井町史 資料編 近世1』 津久井町 2004 [K21.95/26/1-2-1])
- 村明細帳については、ある程度まとまって掲載されているもののみ記載した。このほか、自治体史の資料編などに多数掲載がある。



## 史料についてさらに知る－参考文献－

### 郷 帳

- ◆福井保「郷帳(慶長・正保・元禄・天保郷帳)」(『江戸幕府編纂物 解説編』 福井保著 雄松堂出版 1983 [027.1/1/1])
- 『江戸幕府撰国絵図の研究』川村博忠著 古今書院 1984 [291.03/169]
- ◆斎藤司「解題」(『関東甲豆郷帳』 関東近世史研究会校訂 近藤出版社 1988 [K27/58])
- 『国絵図』川村博忠 吉川弘文館 1990 [291.03/255]
- 『国絵図の世界』 国絵図研究会編 柏書房 2005 [291.03PP/306]
- ◆和泉清司「近世初期一國郷帳の研究」(『地域政策研究』 vol.8(2) 高崎経済大学地域政策学会 2005 [Z305/544])



## &lt;成立経緯&gt;

- ◆黒田日出男「江戸幕府国絵図・郷帳管見1」（『歴史地理』vol.93(2) 日本歴史地理学会 吉川弘文館 1977 [Z210.05/5]）
- ◆丑木幸男「上野国寛文郷帳諸写本の検討」（『史料館研究紀要』(23) 国文学研究資料館史料館 1992 [Z210.05/10]）
- 『領域支配の展開と近世』杉本史子著 山川出版社 1999 [210.5HH/558]

## &lt;諸本&gt;

- ◆大塚英明「内閣文庫保管国絵図・郷帳一管見」（『三浦古文化』(33) 三浦古文化研究会 1983 [K20.3/3/33]）
- ◆長澤孝三「国立公文書館内閣文庫所蔵国絵図・郷帳の重要文化財指定について」（『北の丸』(16) 国立公文書館 1984 [Z310.9/7]）
- ◆福田千鶴「尾張藩土苗部相嘉と「諸国郷帳」の成立」（『史料館研究紀要』(26) 国文学研究資料館史料館 1995 [Z210.05/10] 再録『江戸時代の武家社会』福田千鶴著校倉書房 2005 [210.5PP/687]）

## &lt;その他&gt;

- ◆『近世初期・南武蔵野の村落と支配』林巖著 東京大学史料編纂所 1972 [K25.98/8]
- ◆神崎彰利「郷帳」（『明治大学刑事博物館年報8』明治大学刑事博物館委員会 1977 [326/43/8]）
- ◆北島正元「解説」（『武蔵田園簿』近藤出版社 1977 [K27.98/9A]）
- ◆福井保「『天保郷帳』附元禄郷帳 解題」（『内閣文庫所蔵史籍叢刊55』汲古書院1984 [210.08/136/55]）
- ◆山崎謹哉「近世武蔵国における村落の歴史地理的考察」（『専修人文論集』(36) 専修大学学会 1985 [Z051.3/87]）

**村明細帳**

- 『村明細帳の研究』野村兼太郎著 有斐閣 1954 [K27/85]
- ◆藤村潤一郎「農村文書(二)村明細帳」（『文部省史料館報』(14) 文部省史料館1971 [Z210.05/16]）
- ◆石井良助「村明細帳」（『日本団体法史』石井良助著 創文社 1978 (法制史論集3) [322.1/56]）
- ◆木村礎「村落の概要・政治」（『日本古文書学講座7』雄山閣出版 1979 [210.08/118/7]）
- ◆木村礎「寛永期の地方文書」（『日本古文書学論集12』日本古文書学会編 吉川弘文館 1987 [202.9/18/12]）
- ◆石井良助「村明細帳について」（『日本古文書学論集12』日本古文書学会編 吉川弘文館 1987 [202.9/18/12]）
- ◆神崎彰利「近世文書について 2」（『伊勢原の歴史』(4) 伊勢原市 1989 [K21.64/6/4]）
- ◆西川武臣「江戸時代の津久井を復元しよう」（『津久井町史 資料編 近世1』津久井町 2004 [K21.95/26/1-2-1]）

<成立経緯>

- 『復刻徳川幕府県治要略』安藤博編 柏書房 1965 [210.5/97]
- 『地方凡例録(上・下)』大石久敬著 近藤出版社 1969 [322.15/16/1~2]
- ◆神崎彰利「村明細帳」(1)(『明治大学刑事博物館年報9』明治大学刑事博物館委員会 1978 [326/43/9])

<相模国村明細帳について>

- ◆青山孝慈「相模国津久井県江戸時代後期の村明細帳」(『神奈川県史研究』(20)神奈川県県史編集室 1973 [K21/18/16-20])
- ◆青山孝慈「相模国三浦郡の村明細帳」(『三浦古文化』(13)三浦古文化研究会1973 [K20.3/3/13-14])
- ◆青山孝慈「相模国高座郡の村明細帳1・2」(『藤沢市史研究』(7)(8)藤沢市文書館 1975-1976 [K21.52/12/7-10])
- ◆青山孝慈「相模国鎌倉郡の村明細帳1・2・3」(『三浦古文化』(23)(24)(26)三浦古文化研究会1978-1979 [K20.3/3/23・24・26])
- ◆神崎彰利「村明細帳」(2)(『明治大学刑事博物館年報10』明治大学刑事博物館委員会 1978 [326/43/10])
- ◆青山孝慈「相模国三浦郡の村明細帳二 1・2」(『三浦古文化』(42)(43)三浦古文化研究会 1987-1988 [K20.3/3/42・43])
- ◆神原武男「藤野七ヶ村の村明細帳」(『ふじの町史研究誌』(3)藤野町 1993 [K21.95/9/3])
- 『旭区近世村明細帳の研究』横浜旭区歴史の会 1994 [K20.15/13/2]
- ◆神原武男「村明細帳の検討」(『ふじの町史研究誌』(4)藤野町 1994 [K21.95/9/4])
- 『相模国村明細帳集成』別冊 青山孝慈・青山京子編 岩田書院 2001 [K27/78/4])
- ◆高橋多恵子「山北の村むらとそのようす解説」(『山北町史 史料編 近世』山北町 2003 [K21.81/28/1-2])
- ◆「津久井町の村明細帳一覧」(『津久井町史 資料編 近世1』津久井町 2004 [K21.95/26/1-2-1])